



分大附特マスコットキャラクター
ポブラちゃん&コキアちゃん ©



第九次研究 研究主題

子どもの「将来の夢」を支援するために
今すべきこと・できること
～新学習指導要領を
具体的に位置づけた授業づくり～



第九次研究 研究報告

I. 第九次研究を通して生産された「授業づくりツール」

目的

新学習指導要領で具体的にされた各教科等（国語、算数・数学）の内容から、子どもの実態に応じて適切に指導内容を設定して指導するため

内容

・学習指導要領に示された内容を段階化・具体化したもの。その指導を行う際の留意点やポイントも記載した

使用する場面

- ・**年間の計画を立てるとき**、子どもの実態把握に**P**
- ・**題材開始前に**、その指導の形態の目標を設定するとき**P**
- ・**指導に困ったときに**、指導のポイントを参考に**D**
- ・**題材終了後や年度末に**、子どもの到達状況のチェックリストとして**C**

- P** 計画
- D** 実践
- C** 評価
- A** 改善

「算数・数学科」 指導内容具体表

大分大学教育学部附属特別支援学校
昭和62年2月24日 算数・数学科教育課程のもとに
令和 2年8月末日 加筆・修正版

指導内容具体表から指導内容を決めて、その後、記述要領に沿って題材の具体化をしていく

目的

指導と評価を一体化し、主体的・対話的で深い学びを実現するため、また、その意義や目的を職員が実感するため

内容

- ・実態把握から評価までの授業づくりの工程を示し、順に要点を確認しながら授業を作ることができるようにしたもの
- ・日々のR研（15分間の振り返り時間）を活用して、計画、毎実践の評価・改善、題材終了後の評価を記述するシート

使用する場面

- ・題材開始前に授業を構想するとき**P**
- ・毎授業後**C****A**
- ・題材終了後**C**
- ・次題材の**P**

- P** 計画
- D** 実践
- C** 評価
- A** 改善

PDCAサイクルシート「U-note」

指導内容具体表から指導内容を決めて、その後、U-noteで題材の概要を構想する

U-noteを具体化するとき記述要領を使用したり、記述要領を参考にしながらU-noteを書いたりする

U-note	
実施期間	令和 年 月 ～ 月
学部	
グループ	児童生徒氏名
教科	指導領域
実態	知識及び技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力・人間性
どうなっている？(望む姿・到達像) 学習指導要領の扱う技能の目標と内容と題材目標	
実態について ☐ 個別的教育支援計画を確認（その子どもに必要なこと？） ☐ 個別の指導計画で領域を確認 ☐ 知識を領域化した一覧表実態表として使用し、実態を把握 ☐ 「できない」ことは問題でなく、つまずきの原因が重要 (1) この題材で達成が可能？ 【可能性】 (2) 現在の生活で必要は？ 【必要性】 (3) 将来の豊かな生活につながる価値は？ 【価値性】	

目的

育成したい資質・能力や3観点評価を**実践にどのように位置づけるか明確に示すため**

内容

- ・新学習指導要の考え方に沿って、必要な構成と用語の定義化を図り、各項目に記述の仕方を記載したもの

使用する場面

- ・題材開始前に学習指導案を書くとき**P**

新学習指導要領の考え方に沿った「学習指導案記述要領」



新学習指導要領の国語と算数・数学の目標と内容との対応

データの活用			
	大項目	小項目	具体化した指導内容
1	もの、個数、文や図で表したり、読み取ったりすることができる	① 絵グラフを作成する	a. いろいろなもの（絵）を種類ごとに分ける b. 始まりの位置を決めて、もの（絵）を同じ向きに、一つずつそろえて並べる c. d. e. 指導に当たって ・ものや絵の種類について、はじめは2種類から扱うようにし、子どもがラフに慣れてから種類を増やすようにする ・同じ向きに並べるとき、物の数がずれないように、他の種類のもの（絵）とそろえて並べるように指導する ・物を並べる向きは、グラフの読み取りにつなげるために、「左から」や「下から」を扱うようにする

新学習指導要領の
国語・算数数学の
目標と内容との対応

学習指導案への具体的な位置づけ

P D C Aサイクルの充実

新学習指導要領の考え方を実践に具体的に位置づけるために、育成したい資質・能力の三つの柱ごとにグループを作成し、それぞれの柱の観点で、**実践を行う際の考え方や学習指導案に何を記述する必要があるか**を検討した。

※三つの柱をそれぞれ独立して捉えているわけではない。
三つの柱を具体的に位置づけて考え方を示すため、また、学習指導案を読んだ人がわかりやすいように、研究の方法としてグループを作成して研究を進めた。

各グループのリーダーが定期的に集まり、進捗を報告して情報共有を行った。三つの柱につながりをもたせようとする中で、使用する用語の意味の共通理解がしにくいという課題が見つかった。

各グループの学習指導要領を基に、授業づくりに必要な項目と記述する内容をまとめて、記述要領を作成した。
それを使用して、指導案を作成し特定授業研究会を実施した。



学習指導案記述要領に沿って指導案を作成し、小学部の国語と中学部の数学で特定授業を実施した。授業研究会では、KJ法を用いて三つの柱のめあてとその指導場面、評価の仕方や適性、授業の改善案などについて意見を交換することができた。

育成したい資質・能力



そこで、教員から意見をもらいながら用語の定義化を研究部で行った。
作成した定義に基づき、学習指導案に必要な内容の検討を各柱で進めていった。

特定授業研究会での改善を受けて、各グループで学習指導案記述要領に記載する内容について見直し、その後、研究部で検討、集約をして修正した。



新学習指導要領の考え方に沿った「学習指導案記述要領」

R 研

R 研とは… Reflection（振り返り）の頭文字で、放課後、その日の授業実践（国語、算数・数学）を共同授業者と振り返る時間のこと

- 【目的】
- ①本校の研究生産物を日常的に活用して授業づくりをすることで指導と評価の一体化の重要性を理解し、PDCAサイクルを効率的に循環することができ、教員の授業力の向上を図る。
 - ②計画から評価までを完結させられることで、働き方改革の一助とする。

- 【方法】
- 児童生徒下校後、15分間で実施する。
 - 題材の進行に応じて、改善→評価→次題材の計画の流れで行う。
 - 国語、算数・数学のみ扱うこととする。改善・評価・チェックリスト・計画を適宜扱うようにする。また、教具づくりなどの作業は行わず、教具の構想や用途を考える時間とする。
- ※国語と算数・数学、一実践で行う指導の形態の授業構想シートは計画したものを題材開始前に研究部に提出する。
※題材序盤、中盤は必ずRシート（題材目標や本時のめあて、子どもの様子と改善案などを記入するシート）に記録を取りながら実施する。終盤は評価の入力を行う。

R研について、研究生産物の振り返りシートの使いにくいところや、15分間をどのような時間にしたいか職員にアンケート調査を行った。

3か月後、R研の実施方法や三つの柱のめあてと評価に関すること、シートの記入のしやすさなどにさらに改良するためのアンケートを実施。

研究テーマに合わせ、三つの柱のめあてと評価を加え、アンケートに応えた内容の振り返りシートを作成した。（Rシート）

2度目のアンケートを取り入れ、シートを改善した。

シートの作成、改善を経て、これまで使用していた数枚のシート（構想用、内容チェック用、振り返り用）をまとめたものを作成。
また、これまでのシートも、個人に応じて書きやすさがあるとわかり、統一はせず、好きなシートに記入できるようにした。

学習指導案への具体的な位置づけ

PDCAサイクルの充実

2. 第九次研究の成果と課題

公開研究発表会



- これまでの研究で生産されたものを用いて、
- ①新学習指導要領に沿った学習指導案を伴う授業公開
 - ②公開した授業の考え方と授業づくりの過程を分科会で発表
 - ③一人一実践をポスターにまとめ、様々な指導形態での実践を発表

- ①思考力・判断力・表現力の育成について焦点を当て、主体的・対話的な授業を考え、学習指導案に評価規準までを記述した
- ②授業のポイントとなる子どもたちの姿を想像し、そうなるための工夫の過程を資料にした
- ③国語や算数・数学、それ以外の教科や各教科等合わせた指導における実践を行い、授業づくりの流れに沿って、工夫点を挙げ、授業改善の考察までを記載したポスターを作成した



参加者の声

個に応じたためあてと方法が用意され、全体として説明する場面が用意され、何を伝えたいのかよくわかった。ワークシートも工夫されていた。

記述要領があることはとても有意義。授業づくりの頭の使い方が伝えられ、その他の領域や学年の授業に応用できる。

三つの柱の目標設定について、わかりやすく整理されていて参考になった。

自分の知りたい内容が網羅されていた。ポスターはワンペーパーなので、職場で環流するときにも見やすいと思った。

特別支援学校学習指導要領等の改訂によって、知的障害教育における学習評価については、特に「合わせた指導」において、目標設定から学習評価までどのように進めるかが大きな課題になっていると思います。ぜひ、次は「合わせた指導」における学習評価について取り上げていただければと思います。

きめ細かいことばかけや支援グッズ、子どもたちの思考する過程を見ることができ、とても勉強になった。

まさにアクティブラーニングでした。生徒の生き生き活動する姿を引き出す、先生の授業の工夫もみせていただきました。

新学習指導要領で示された目標を3つの資質・能力に分けて設定し、その目標に応じた評価について各学校で生かすことができる基本的な考え方と手順を示されており、時機を得た公開研究会であった

なるほど！



第九次研究を通して見えてきたこと



学習の基盤となる資質能力の育成
・言語能力
・情報活用能力
・問題発見・解決能力

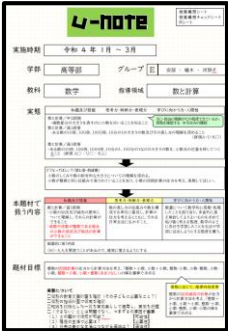
学びに向かう力の多様な姿
・粘り強さや自らの学習を調整する力

学んだことを生活の中で活用・汎化しようとする態度や習慣

※これらはすべて、授業づくりの中で教師が設定する今後の課題である

課題

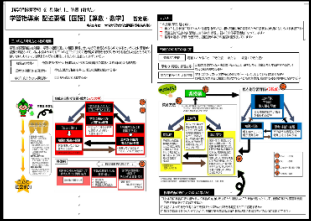
【U-note】



作成の定着がなされていないため、取組と内容の改善を行う



【学習指導案記述要領】



わかりやすく書きやすい工夫と合わせた指導に対応した記述要領

授業づくり

まとめ

第九次研究を通して、新学習指導要領の考え方・実践へのつなげ方の基礎・基本をつくることはできた。成果にあるように、教員や子どもたちの姿にも変容が見られ始めている。今後は、課題として挙げた生産物の修正と拡充、それを通して、学習指導要領や授業実践に必要なことの理解を深めていくことが必要である。そして、そうすることで、合わせた指導や学習の基盤となる資質能力の育成などへとつながっていくのではないかと考えている。並行して、理解しやすい、使ってみたい、そう思える生産物づくりも今後の課題の一つとしてとらえ、本校教員全員で取り組んでいきたい。子どもたちの将来の夢を支援できるように。



子どもに望む姿



主体的・対話的で深い学びの実現に向けた実践と改善により、子どもたちの学ぶ姿に変化が見られている

成果

【ポスター】



公開研究発表会で行った題材を終え、まとめを作成した





編集後記

第九次研究は、改訂された学習指導要領に則った授業構想、実践、評価と、本校の教員全員が始めの一歩となる研究でした。学習指導要領を開き、解釈する姿があちこちで見られ、『より子どもたちが主体的に取り組む』ために、若くフレッシュなアイデアでの授業構想、ベテランらしい子どもの特性に応じた支援の提案など、教員それぞれが「今すべきこと・できること」に取り組んだ研究でした。

また、公開研究会では、コロナ禍によるハイブリッド方式という初めての試みに、授業を考えることに加えて、教員が学び、工夫することが求められました。子どもたちのがんばっている姿を伝えるために試行錯誤した姿は、研究会後にハイブリッド方式についても公開してほしいとご要望をいただいたことで、評価されたと受け止めています。

簡易な形ですが、第九次研究の研究報告をまとめました。ご一読され、ご指導をいただくと幸いです。私共、教員一同、今後も、子どもたち一人一人の夢をかなえるために、よりよい授業づくりに努めていきたいと思います。

大分大学教育学部附属特別支援学校
校長 後藤 みゆき

研究同人

校長	後藤	みゆき
教頭	阿南	勝幸
研究アドバイザー	小手川	哲一
研究主任	足立	充弘

【研究グループ】 ○学部主事 ☆研究部

【小学部】

○青柳 俊	阿部 よしみ	半田 郷子
☆阿倍 智樹	豊田 眞子	神原 就明
☆赤嶺 一字	衛藤 亜理	西海 あずさ
		前田 浩彦

【中学部】

○藤元 宏之	三浦 隆一	神崎 稔正
☆那賀 英里佳	藤並 寛子	津田 美穂
井上 滉太	柳井 貴恵	平野 令子

【高等部】

○伊東 晃一	峰藤 暁志	近藤 潤一郎
☆梅村 匠人	田城 ひろみ	森田 理恵
徳脇 朋子	播磨 久美子	田中 鮎子

【養護教諭】

滝石 万里子

【栄養教諭】

丸山 好美

【育児休業】

阿南 蘭 平田加奈子

【本研究の指導助言者】(敬称略)

衛藤 裕司	(大分大学教育学部)
佐藤 晋治	(大分大学教職大学院)
木村 文美枝	(大分大学教職大学院)

印刷・発行 令和4年3月

発行 大分大学教育学部附属特別支援学校

〒870-0819 大分市王子新町1番1号

TEL 097-543-8317

FAX 097-545-4726

HP 097-543-8317

MAIL oitafuyo@cc.oita-u.ac.jp

